

8月20日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナ軍兵士、飢えでロシア軍に降伏(2023年8月18日)

ウクライナ兵が2人の仲間とボートでドニエプル川を渡ってロシア軍に投降した。この兵士はスプートニクに対し、指揮官の態度の悪さや不十分な戦闘訓練、また飢えが投降の理由だと語った。

兵士によると、戦闘に参加するための訓練期間はわずか5日間だった。兵士は「これだけの期間で何かを身につけられると思いますか?」と問いかけている。

訓練の後、兵士はウクライナの第123領土防衛旅団に送られた。旅団が配置されているヘルソン州に到着してから2日目、兵士はドニエプル川右岸の陣地にいた。兵士によると、ドニエプル川左岸からは絶え間なく砲撃と迫撃砲による攻撃があり、兵士たちは「クレーシ(ダニ)」というコールサインを持つ指揮官から指示された任務を1つも遂行することができなかった。

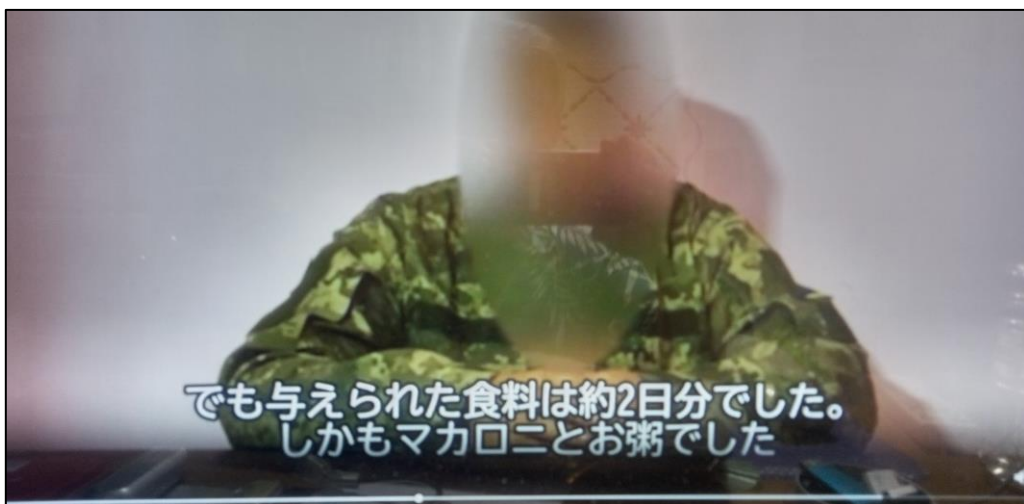
「私が彼(編注:指揮官)を見たのは初日だけでした。彼はいつも後方において、私たちのところに来たことは一度もありませんでした。3日目には食料がなくなりました。食料は配送されないとされました。燃料がないからだ。(編注:他の者たちは)燃料を自分たちのお金で買っているようでしたが、私たちにはお金がありませんでした」

兵士は、訓練もしていないこのような状況で自分の命を危険にさらすことはしたくないと考え、「最初のチャンスが訪れたら投降して捕虜になる」ことを決めた。そして約1週間後、逃亡のチャンスが到来した。

「ドニエプル川の岸辺の一番端の陣地にいました。日中でした。私はボートに気づきました。私に全面的に同意した仲間2人と夜中に左岸までボートで移動しました。白い布を見つけて、それを棒に縛り付けて、そして移動し始めました。私たちはアサルトライフル3丁とグレネードランチャーを持っていました。とても怖かったです。私たちの部隊が我われに向かっていつ発砲してくるかわからなかったからです」

ロシアのパトロール隊は8月8日、ドニエプル川左岸で逃亡兵3人を拘束した。彼らはAK-74アサルトライフル3丁、5.45mm口径弾360発、携帯式対戦車グレネードランチャーとその弾3発を所持していた。

https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20230817/2023_08_17_plennyx2_prajpp2x.2yv.mp4



●CIA がブリンケン長官に警告 ウクライナ反攻はすぐにも失敗＝ハーシュ記者 (2023年8月18日)

米中央情報局(CIA)がブリンケン国務長官にウクライナの反転攻勢は成功していないと警告を發したことを、米国人調査報道記者のシーモア・ハーシュ氏は明らかにした。ピューリッツァー賞を受賞のハーシュ氏はこれについての記事を、自身のオンラインプラットフォーム Substack に掲載した。

「彼(編集:ブリンケン)はエージェンシー(編集:CIA)からウクライナの攻撃がうまくいっていない報告を受けました。これはゼレンスキーがやったショーでした。そして米行政の中の数人が彼のナンセンスを信じたのです」ハーシュ氏は米情報機関内の消息筋の発言を引用している。

ハーシュ氏の話筋は、ブリンケンが先達のヘンリー・キッシンジャー氏が演じたのと同じ役割を自分もやってみたかったのだろうとも語った。キッシンジャー氏は1973年、パリ協定(ベトナム和平)を結び、ベトナム戦争に終止符を打った。ブリンケンがこれと似たようなことをウクライナ紛争でやってみたかったのだ。

その他、ハーシュ氏の話筋はサウジアラビアのジッダで行われた、ウクライナ紛争の和平についての交渉についても打ち明けた。話筋によれば、交渉はもともとはウクライナが成功した場合を想定したもので、交渉を実際に発案した人物はジェイク・サリバン国家安全保障問題担当米大統領補佐官だった。

ハーシュ氏の話筋はこれを1918年の第1次世界大戦において連合国とドイツの間で講和条件について話し合われたパリ講和会議と比較して、次のように語っている。

「自由世界の連合は憎悪する敵を屈辱的に敗北させた後、勝利の祝祭に会し、次の世代のための民族の共存フォーマットを規定したわけです」

話筋は、当初の計画ではロシア指導部の犯罪を裁く裁判まで想定されており、法廷ではサリバンが米国を代表するはずだったと付け加えた。



●ウクライナ紛争煽る米国務長官は事実歪曲＝ハーシュ記者(既報、2023年6月8日)

米国人ジャーナリストのシーモア・ハーシュ氏は、アンソニー・ブリンケン米国務長官がウクライナ紛争を煽り、他国がロシアへの憎悪を募らせるために歴史的な事実を歪曲していると主張した。この見解はハーシュ氏自身のウェブサイトに掲載されている。

ハーシュ氏が注目したブリンケン長官の発言は6月2日にヘルシンキで發せられたもの。同長官はフィンランドのNATO加盟に関する演説を行っている。

「ブリンケンは、ウクライナの戦争を信奉するあまり我を忘れていた。またしても彼は、ウクライナ市民が切実に必要としている対話、停戦を完全に無視した」

ハーシュ氏はまた、ブリンケン長官は、ウクライナ紛争を停戦し、戦闘行為を凍結しても「恒久的で公正な平和」ではなく、「ポチョムキン的な平和」(編集注:見せかけの平和の意)にしか至らないと考えていると指摘した。

「彼の声明の真意は、より率直に言えば、『俺はロシア人が憎い。(あいつらは)血を流せ』ということだ」ハーシュ氏はこう述べている。



●「モスクワ・シティ」近くでウクライナのドローン撃墜＝露国防省(2023年8月18日)

18日、ロシアの首都モスクワのビジネスセンター「モスクワ・シティ」に隣接する展示場「エキスポセンター」に、撃墜されたウクライナのドローンの破片が墜落した。けが人はなかった。露国防省などが発表した。

露国防省によると18日午前4時ごろ、対空防衛システムで対応したところ、ドローンの軌道が変わり、クラスノプレンスカヤ通り周辺の非現住建造物に墜落した。けが人や墜落による火災はなかった。

モスクワ市のセルゲイ・ソビヤニン市長によると、ドローンの破片はエキスポセンターのファサードに墜落し、20平方メートルの範囲が損傷した。

ウクライナはモスクワへのテロ攻撃を強めている。7月30、8月1日には日本企業も拠点を構えるモスクワ・シティにドローンが墜落して、軽微な被害が出た。9、10、11日にも首都郊外のモスクワ州にドローンが飛来したが、いずれも撃墜されている。



●「NATO には脅威」 ロシアのミサイル複合体に米国が震撼(2023 年 8 月 18 日)

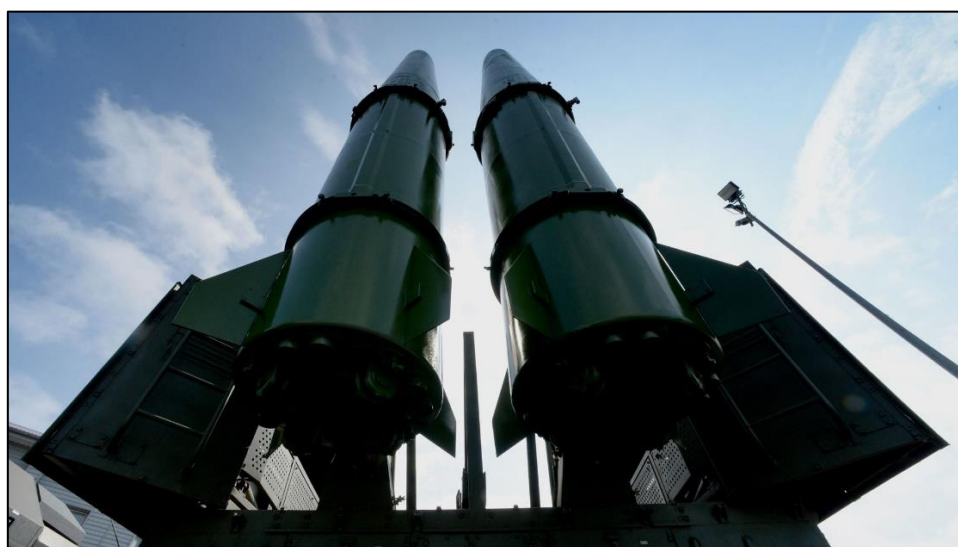
ロシアの作戦戦術ミサイル複合体「イスカンドル」について、米ミリタリーウォッチ誌は NATO にとって大きな脅威とする記事をあらわしている。

「イスカンドル M 用のミサイルの備蓄はロシア軍にはかなりある。備蓄の大部分はこの戦闘行為がエスカレートした場合、NATO に対抗するために使われるだろう」

記事の筆者は、西側にはロシアのイスカンドルに類似したものはないと書いている。しかも専門家らの間ではイスカンドルはこれまでに全くなかった軍事上の可能性を開いていると警告が寄せられている。

NATO はイスカンドルから発射されるミサイルを撃墜しようとするのであれば、完璧な対空防衛システムを持つ必要がある。筆者は、ロシアはイスカンドルをおかげで報復攻撃を行う可能性を残していると強調している。

スポーツニクは、国際軍事技術展示会「アルミヤ 2023(Army2023)」に展示された最新のロシア製ミサイル RVV-MD2 の特徴について専門家に取材した。



●軍事作戦でも運用 ロシアの作戦戦術ミサイルシステム「イスカンドル」(既報、2023 年 7 月 19 日)

ロシア軍産複合国営企業「ロステック」傘下のヴィサコトシニエ・コンプリクシ社によると、ロシアは 2023 年、作戦戦術ミサイルシステム「イスカンドル M」の部品の生産を倍増させた。「イスカンドル」はウクライナにおける軍事作戦でも定期的に運用されている複合ミサイルシステムで、弾道ミサイルと巡航ミサイルの両方を搭載する。スポーツニクは、イスカンドルの性能と長所を動画でまとめた。

システムの弾薬は標的へ接近すると電子妨害を仕掛け、ウクライナの防空に対しては事実上無敵である。また、巡航ミサイルは超低空を飛行し、地形に沿って旋回することが可能。ロシア国防省によれば、これを探知することはほぼ不可能だという。



●「厳重に守られた機密」ウクライナが受け取ることはできない最新兵器について米軍退役軍人が語った(2023年8月17日)

米国がウクライナに最新の軍事装備品を移送していないのは、それらがロシアだけでなく中国の手にも渡る危険性があるからだ。米国の軍事専門家でイラク戦争に参戦した退役軍人のマシュー・ホー氏が、YouTube チャンネル「Judging Freedom」のインタビューで語った。

ホー氏は、これは機密技術に関することだと指摘し、特に新型のエイブラムス戦車や長距離弾道ミサイル ATACMS などに関係すると述べた。同氏は、第 1 陣としてまもなく 6 両のエイブラムス戦車がウクライナに到着することに言及した。これは湾岸戦争の前(編注:1980 年代)から生産が始まった旧式の M1A1 型。ホー氏によると、米国がウクライナに新型戦車を提供しない主な理由は装甲にある。

「エイブラムスの装甲は非常に厳重に守られた機密であるため、ロシアがその仕組みを理解し、それを利用するようなことがあってはならない」

ホー氏は、高機動ロケット砲システム HIMARS の GPS 誘導ロケット弾をめぐっても同じようなことが起こったことに言及し、ロシア軍は GPS を妨害することを学んだと指摘した。まさにそのため ATACMS の提供が懸念されているという。ホー氏によると、これらのミサイルの無力化に関する情報が中国の手にも渡る可能性があり、米国は当然のことながら中国との対立を懸念している。

米国の「機密」技術

米ポリティコ紙は 7 月末に出した記事の中で、米国がウクライナに供与するエイブラムスの第 1 弾は旧式の M1A1 型が 6 から 8 両からなり、送られる戦車台数は合わせてウクライナの大隊に相当する 31 両と報じた。しかもエイブラムスはウクライナ軍に送られる前にドイツで「刷新」されるという。ロシア外務省外交アカデミーの軍事専門家ワジム・カジュリン氏はロシアのマスコミからの取材に対し、エイブラムスの改良版には機密技術を含む多くの先進技術が使われていることから、ドイツでの「刷新」とはつまり、ロシア軍の手に渡るのを防ぐために機密装備を外すことではないかとの見解を表した。

ウクライナのレズニコフ国防省は 7 月初旬、英紙フィナンシャル・タイムズのインタビューで、HIMARS は「非常に正確」であることが証明されたが、ロシア軍の電子戦対応装備によって妨害される可能性があることを認めた。軍事専門家のフランク＝ステファン・ガディ氏は米国のオンラインジャーナ

ル War Zone のインタビューで、ATACMS もハイマースと全く同じスキームで機能しているため、ロシアの防空システムは簡単にその有効性を低下させることができると語った。



●ロシア軍は特別軍事作戦中に NATO のどんな兵器を奪い取ったのか？(2023 年 8 月 6 日)

ウクライナの欧米のスポンサーは図らずもロシアに装備品を提供することになった。もともとは米国とその同盟国がキエフ政権に供与した装甲車両や兵器などが、どんどんロシアに奪い取られている。

ロシアのショイグ国防相は今週、ウクライナ紛争の地帯でロシア軍が鹵獲したスウェーデン製歩兵戦闘車両 CV-90 を自らの目を見た。

CV-90 は、そのクラスで最も現代的な戦闘車両の 1 つとして伝えられていたが、結果的に 1960 年代初頭に採用された携帯式対戦車擲弾発射器 RPG-7 から発射されたロケット弾によって故障し、乗組員が急いで逃走したあとに放置されたものとしてすぐさまロシア軍によって鹵獲された。

ロシア軍は NATO のどんな兵器を奪い取ったのか？

2022 年 2 月にウクライナ紛争がエスカレートしてから数カ月後、ロシア軍による欧米の兵器や装備品の鹵獲に関する報告が届き始めた。

2022 年 6 月、フランスの政治家レジス・ド・カステルノー氏は、フランスがウクライナに供与した自走榴弾砲「カエサル」2 両がロシア軍の手に渡ったことを嘆いた。

これはロシアの有力な防衛請負業者の 1 つ、ウラルバゴンザヴォードによってすぐに確認された。同社は「カエサル」の獲得を SNS で認め、この予期せぬ贈り物に対する感謝をフランスのマクロン大統領に伝えるようド・カステルノー氏に頼んだ。

また紛争地帯では、ウクライナ軍から奪い取った「ジャベリン」や「NLAW」などの欧米の携帯式対戦車ミサイルで武装したロシア兵の姿もよく見られるようになった。

今月初めにはある従軍記者が、そのような兵器を使用するロシア軍は NLAW の方を好んでいると報告した。悪天候時に「ジャベリン」が上手く機能しないのが理由とみられている。

またこの記者は、戦利品の重機関銃「ブローニング M2」で武装したロシア兵を少なくとも 1 回目撃したという。

一方、6 月にウクライナが所謂「反転攻勢」を開始して以来、鹵獲した欧米の兵器に関する報告が著しく増えた。

この軍事作戦に携わる専門家たちは、ドイツの主力戦車「レオパルト」や米国製の歩兵戦闘車「ブラッドレー」をはじめとした北大西洋条約機構(NATO)の大量の装甲車両に期待していた。これらの車両は、ウクライナ軍がロシアの防衛線を突破するのに役立つはずだった。

しかし「反転攻勢」は散々な結果に終わり、反攻で使用された欧米の一部の兵器や装備品は、おそらくウクライナの軍事指導部の計画とは異なるかたちで、ロシアの陣地を通過することになった。

ロシア国防省は今年 6 月、ザポロジエ(ザポリージャ)州でロシア軍が数両の「レオパルト」と「ブラッドレー」を鹵獲したと発表した。

同省はこれらの装甲車両について、その一部はエンジンが無傷だったとし、乗組員が逃走するために単に乗り捨てられたとみられると指摘した。

またロシア国防省は同月、フランスがウクライナに供与した仏製装輪装甲車 AMX-10RC の運命を明らかにする動画を公開した。AMX-10RC は、後退するウクライナ軍によって乗り捨てられた。

それから約 1 か月後、ロシア軍はザポロジエでも別の AMX-10RC を獲得した。地元当局は AMX-10RC について、「ほぼ申し分のない状態」で鹵獲されたとし、ロシアの軍産複合体の専門家によってさらに詳しい調査が行われると発表した。

さらに、ロシア軍が奪い取ったのは小火器や装甲車両だけではない。ロシアの義勇兵部隊バルスー11と「ツァーリの狼たち」部隊は、ほぼ無傷の状態の英国製巡航ミサイル「ストームシャドウ」の鹵獲に成功している。



●【図説】サミット開催 BRICS 諸国の概要、拡大の展望(2023 年 8 月 18 日)

今月 22 日から 24 日までの日程で、南アフリカ共和国のヨハネスブルクでは第 15 回 BRICS 首脳会議(サミット)が開催される。今回の主要議題のひとつに、BRICS の拡大が挙げられる。南アフリカの BRICS 担当特使を務めるアニル・スクラル氏によると、40 カ国以上が BRICS への加盟を希望しており、既に 22 カ国が正式に申請書を提出したという。現在、BRICS 諸国(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)は世界の国土の 26.7%、地球上の総人口の約 41.5%を占めている。スポーツニクは、BRICS 諸国の人口と領土に関するデータをインフォグラフィックでまとめた。

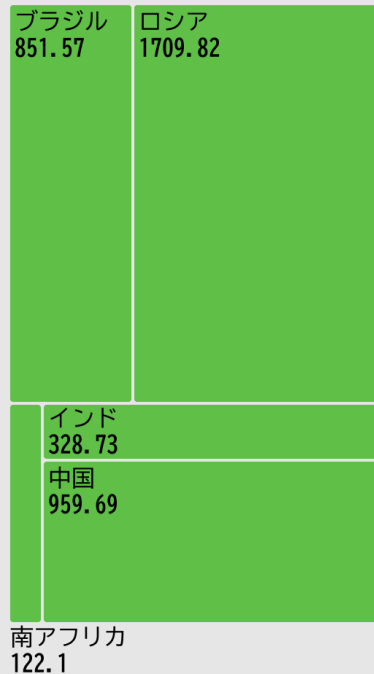
BRICS諸国

BRICS諸国は世界の国土面積の26.7%、総人口の約41.5%を占める。
スプートニクは、BRICS諸国の人口と領土に関するデータを収集した

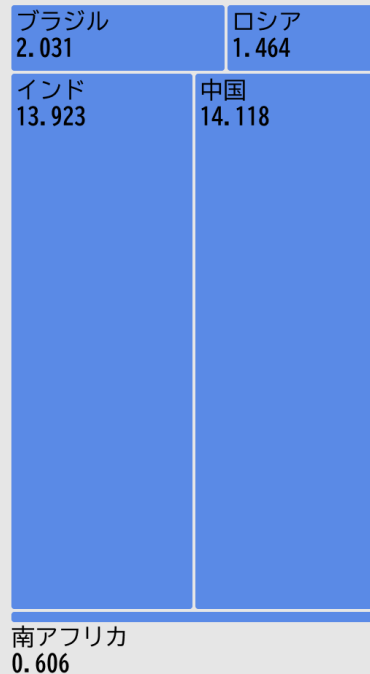
BRICS諸国の領土と人口

BRICS諸国の総面積は3970万km²、人口は32億人

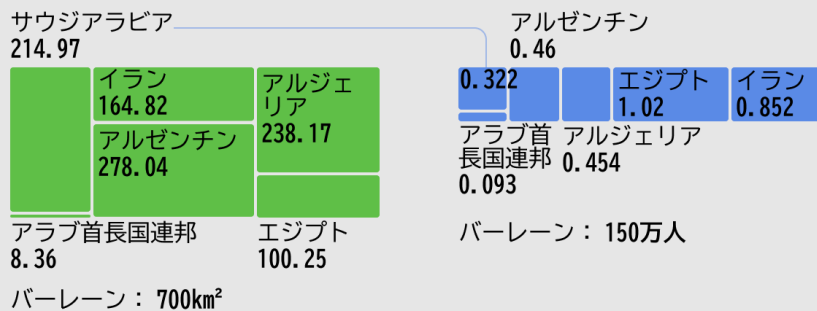
面積（万km²）



人口*（億人）



新加盟候補国



新加盟国の加入によるBRICS拡大の展望

新加盟国の加入により、BRICSの面積は1000万km²、人口は3億2170万人まで拡大する見込み

人口データはロシア、インド、イラン（2023年）、エジプト、バーレーン（2021年）を除き、2022年時点

出典：オープンソース



●「透明マント」ロシア開発の赤外線カメラに一切映らない軍用マテリアル(2023年8月18日)

放射線化学および生物学的保護の軍事アカデミーの科学中隊は三層式の特殊なマテリアルを開発した。これを材料に作られたマントを軍人が羽織った場合、赤外線カメラから自分の身を完全に隠すことができる。このマテリアルは国際軍事技術展示会「アルミヤ 2023(Army2023)」で紹介されている。

「マントは軍人用に開発されたもので、実験では赤外線カメラや赤外線カメラのついたドローンから完全に身を隠すことができると評価された」

マテリアルは 3 層式で内側がマントを着用している人の身体から出る赤外線を反射し、真ん中の層は赤外線を吸収し、外側の層は外界から出ている赤外線を反射する仕組みになっている。

マントと同時に開発されたフードには、偵察の赤外線探知装置に発見されない特殊眼鏡がついており、これを着用すれば敵に全く気付かれずに監視を行うことができる。



●速報：米国とフランスの非常に強力な同盟国であるモロッコが、驚くべきことに BRICS への加盟を申請した(2023 年 8 月 18 日)

モロッコの申請は来週南アフリカで開催予定の BRICS 首脳会議に先立って提出された。



●ピザ屋の少年店員にウクライナ語で喋るように要求するウクライナ人(2023 年 8 月 18 日)

男「ウクライナでは、サービス提供者はウクライナ語喋らなければならない」

店員「あなたはただの配達員で、ここでピザを受け取りお客様に届けるだけ。私はあなたにサービス提供してない」

男「ぶつぶつぶつぶつ blah blah blah」

<https://twitter.com/i/status/1692350311606976662>



●ウクライナ軍の入隊呼びかけの新しい CM:【怖いのは当たり前。自分の怯えに勝つことは強さ】(2023年8月18日)

<https://twitter.com/i/status/1692359762493788386>



●ドイツメディアの表現も変わり始めている(2023年8月17日)

ドイツ BILD 紙「ウクライナはいつまで持ちこたえられるか？31 台の装甲車両が1 つの村のために失われる」



●キエフ中心部で物乞いをするウクライナの退役軍人(2023年8月18日)

キエフ中心部の独立広場で施しを乞うウクライナ軍人。イーゴリさんは負傷した後除隊され、軍は給与の支払いを停止したと語った。彼には生きていくためのものは何もなく、彼の状態では次の仕事に就くことができません。この男性はウクライナ当局の命令に従って命を危険にさらしたが、働く能力を失ったとたんに無力になったことが判明した。現在、退役軍人は思いやりのある通行人からの寄付で生きていかなければなりません。

<https://twitter.com/i/status/1692332583613579420>

